

” ひとりの子どもの涙は、人類すべての悲しみより重い” 2008.12.19(fri)

12月6日の静岡新聞「現論」に柳田邦男氏が書いてありました。表題の言葉、ドストエフスキーが長編小説「カラマーゾフの兄弟」の中で語ってる言葉なんですね。私は、日頃の対応でこの子供たちの涙によく出会います。確かに日頃は、それよりその子ども達の母親の涙に出会うことが多いです。子どもの養育をめぐる、夫から、またその親からも責め立てられ、かかった医者からは親が変わらなければと言われ、どう変わればいいのか分からず、八方ふさがり状態で流す涙。

しかしながら、柳田氏はその論文の中で、07年にユニセフが発表した子どもの「幸福感」に関する調査で、「自分が孤独だ」と感じている子が、西欧の主な国々ではすべて10%未満（最も低いオランダで2.9%）であるのに対し、日本だけが29.8%と飛び抜けて高いという。氏が言うように、子どものほぼ3人に1が「自分は孤独だ」と感じているというのは、只事ではない。母親の涙よりその子ども達の流す涙の重さを改めて考えられました次第です。

” 石釜が遂に完成！” 2008.11.19(wed)

「わんぱく自然の里」のページ(現在は閉鎖2020.8)をご覧ください。遂にピザ&パン焼きの石釜が完成しました！静岡県教育委員会青少年課の助成金を得て9月から作業に入りまして、やはり耐火セメントで煉瓦積みは素人には難しく、左官の青島さんにゼーンぶやってもらっちゃいました。本日からベーコンの仕込みを開始。隣に明日、ブリキ製の米倉を利用して約1m四方のスモーカーを制作。23日が楽しみです。

” 父性の役割 続編” 2008.11.8(sat)

おはようございます。6日付けの日誌の「子どもを殺すに刃物は入らぬ、親が代わってすればいい。」の意味について、お読み頂きました方から、詳しい説明を求めるメールが来ました。ありがとうございます。少し説明が足りませんでした。子どもがすることをすべて親が代わってやってしまう（これが過干渉ですね）、子どもはいつまでも自律も自立も出来ず、年の順から先に親が亡くなると、子どもは生きていくことも出来なくなる、という意味なんですね。私はこの格言の意味に今更ながらうんうんと納得しました次第です。

” 父性の役割” 2008.11.6(thu)

もう何回目でしょうか？この言葉。お久しぶりです。やはり毎日少しずつ書かないと、頭だけが年を取っていってしまいそうです。

ふと読んだ機関誌にいい言葉が書いてありました。「子どもを殺すに刃物は入らぬ、親が代わってすればいい。」前段の「子どもを殺すに刃物は入らぬ」はよく知っていましたが、後段の意味が、ホント恥ずかしながら今日改めて読んで分かりました。日頃から不登校や引きこもりの青少年達と向き合っていて、過干渉を強く感じていながら、この格言になぜ

気づかなかっただろう？更に、その機関誌に「父性とは、世の中の掟を教え、その掟を守らなければ切る、というもののなのに、世の中の掟を教えなかった。そのために世に出られないのなら、面倒見るよ、という父親に面を食らった。」という話。豊かさが産んだ現象でしょうか？

## ” 2008 韓国・済州島 JE-JU 大自然&歴史体験交流合宿の成果、早速表れる！”

2008.8.30(sat)

「わんぱく自然の里」のページ(現在は閉鎖 2020.8)で報告しておりますが、17日に藤枝を出発してから急遽行き先を変更して(航空チケット発券の段階で、人身売買防止のため3年前から14歳以下は親の同意書が必要であることが発覚、急遽計画を変更)行った交流合宿の成果がやはり表れました！長く引きこもっておりました参加者も随分と改善されましたが、中学入学以来ずっと学校の授業に出られなかった参加者の一人が、28日の新学期から授業に出ています、とのそのお母さんからのメールが入っており、今朝ほど読ませて頂きました。良かったです。ホント最後の最後にギリギリで今回の交流合宿参加を決めた一人だけに、私もホッとしました。早速今回の講習合宿の当初の会場を紹介して頂きました元県議と添乗員さんに連絡し、大変喜んで頂きました。

## ” いよいよ 2008 フィリピン・セブ島 英会話大自然交流合宿に出発” 2008.8.16(sat)

様々な交流合宿を行って参りました当フォーラムとしましても、こうした海外の語学学校との提携事業は初めての事です。しかしながら、この事業は、今後はどちらかという現在内閣府認証手続き中の NPO 日本インターネットスクール協会の事業に相応しい事業と思いますが、まずはお互いに経験を積むという目的で今回の企画となりました。そもそも今回ご協力を頂きます ALTA (American Language Teaching Academy) は、私の高校の大先輩で元県議会議員の S 先生からご紹介頂きました語学学校で、今後は毎月全国から不登校生や引きこもりの青少年を募り、出席認定を受けながら2週間から1ヶ月渡って英会話を勉強し、同時にコミュニケーション能力を高め、その解消を図ろうと考えております。

## ” 日本インターネットスクール協会 (JISO) の立ち上げについて その1” 2008.7.2(wed)

昨年の11月下旬のアイリス(株)の突然の双方向授業停止から7ヶ月、ホント大変な毎日でしたが、全国約60の教室の皆様や弁護士の皆様の多大なご支援を頂き、教育の地域格差是正、地域社会=コミュニティ(横の繋がり)再構築を目指して、日本インターネットスクール協会が立ち上がり、人類の叡智であるインターネットを生かした新たな教育システム構築に歩み始めました。現在、内閣府認証のNPO申請中です。正直のところアイリスのリース残を抱え、厳しい経営環境ではありますが、こうした事業に私自身も参加させて頂く機会を与えて下さり、皆様には大変感謝しております。私は、”匿名”のイメージ強い

のインターネットを、コミュニティの場としていきたいのです。なぜなら、世界中の人々が現実と同じ時間を共有できるこのインターネットは、本当に素晴らしい人類の叡智だと思うからです。

### ” 久々の講演” 2008.5.21(tue)

このような私も久々に講演依頼があり、「子育て自己診断」と題して先日2時間余りお話ししてきました。スーツに、さすがにトレードマーク（バンダナ）は外し、ネクタイと、普段しない服装でお話ししたもので、やっぱり肩凝っちゃいましたね。後半、受講生の皆さんの心理テスト（エゴグラム）を取り、その場で一人一人分析をさせて頂きました。ところが、中には皆さんの前で話せないことまで見え、ちょっと戸惑いました。そうなるとう当然ご質問も多く、こりゃあ余り細かい分析は控えないと、ちょっぴり反省もしました。しかし、総じて今重要なのは、やはり家族内の十分なコミュニケーションですね、皆様。

### ” 土居・渡辺著「いじめ」の構造（PHP版）続編2” 2008.3.28(fri)

かつてはイギリスの高校でも大学でも「ファグ」といものがあり、下級生が上級生について世話をしていたそうです。「ファグ」になった下級生は上級生のことを「マスター」と呼び、朝起きると、マスターのベット・メイキングをしなければいけないし、寄宿舎には水道がありませんから、洗面のための水を汲んで持ってきてやらなければいけない。それから、制服にブラシをかけ、靴も磨いてやらなければいけない。上級生に従わない者は、犯罪と見なされ、それにふさわしい罰を受けたそうです。

「自分のマスターであるロールは、いつも自分には跳べないような幅の広い溝を跳ばせる。自分が溝に落ちると、拍車で自分を蹴る。だから、私の足は血が流れている。」「自分のギリシャ語の詩人の本はパルプにされてしまったし、私の新しい着物はボロボロです。」という。

当時ある生徒が母親に宛てた手紙を読むと、いじめに似ているところがあるようにも感じますが、渡辺氏は違っていると言う。「ファグ」は「しごき」に近いですね。上の者が下の者をしごく。いじめというのは、人間関係が横です。しごきは上下関係が入る、と土居氏。しごきの特徴として言えるのは、一年生でしごかれていても、自分は必ず上級生になるから、一年ごとにしごきから少しずつ解放され、逆にしごく側になれる。古参兵が新兵をいじめるというのも順送りだから、我慢できた。自分が上級生になれば、「ファグ」がつくわけですから、順送りになるということで先が見えたし、我慢することもできた。

ところが、いじめは来年三月まで、などという類のものではありません。どこまでも続く「果てしないぬかるみ」のように感じられる、と渡辺氏は述べております。我々の世代はこうしたしごきを経験しておりますが、確かにそのしごきには陰湿さはこれぼっちもなく、練習が終わった後は、先輩達は後輩達を労ってくれました。

” 土居・渡辺著「いじめ」の構造 (PHP 版) 続編1” 3008.3.4(tus)

いじめをなぜ親に隠そうとするのか。ーいじめられるというのは、ものすごく惨めな体験なのです。だから、人に言いたくない。(親を悲しませるから) 特に身近な人には言いたくないでしょう。かえって他人に対しての方が言えるかものしれません。

大河内清輝君は、死ぬ決心をして初めて親や兄弟に向かって(遺書の形で)いじめのことを言えた。「(お金を要求する同級生に)僕が素直に(お金を)差し出してしまったからいけないのです」と、共犯者の意識があった。

夏目漱石の「こころ」の主人公の「先生」は死ぬ決心をしたときに、自分の過去の暗い秘密を遺書に書くことができた。「先生」は、友人の死について罪悪感を持っていた。その罪悪感の故に過去のある出来事(友人の恋人と結婚したこと)を誰にも言えなかった。

いじめは危険で悪質なサディズム。清輝君が非常に優しい性格であるだけに、「こうすべきだ」(=「悪に抵抗するな」「悪と戦わなければならない」と明確に教えられていなければ、「抵抗する」、さらには「戦う」という行為はむずかしかっただろう。そこには、一つに現代の自立を重んじる教育がもたらす影響が大きいのではないのでしょうか。自立を人間の基本と考えていて、自分で解決できないことを人に頼むわけにはいかない、と子どもながらに思っていたのかもしれない。と、土居先生は書で述べておられます。若輩者の私が言うのは大変おこがましいのですが、全く同感です。

” 土居・渡辺著「いじめ」の構造 (PHP 版)” 2008.1.31(thu)

いい本です。昨日数時間で一挙に読んでしまいました。特に土居先生の見識には敬服致しました。11年前、杉田峰康・現日本交流分析学会理事長&福岡県立大学名誉教授(当時)が、教育関連事業協同組合主催のワークショップでおっしゃった、「いじめは妬みです」という意味がしかと分かりました。戦後の日本人の精神構造、それによって引き起こされる若年層の自殺構造、まさに「目から鱗」の本です。皆様も是非お読み下さい。

” 明けましておめでとうございます。” 2008.1.1(mon)

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。今年は新年草々大きなプロジェクトの立ち上げを予定しております。今日明日はその最終チェックです。今年も宜しく願い申し上げます。